

小児外科

(スタッフ)

部長 : 伊崎 智子
主任医師 : 福原 雅弘
医師 : 皆尺寺 悠史 (4月から)
嘱託医 : 佐藤 (森口) 智江 (7月から復帰)
専攻医 : 山口 修輝 (3月まで)

2022年12月のスタッフにおいて、伊崎智子、福原雅弘は日本小児外科学会専門医です。

2021年度は伊崎、福原、山口の3人体制で行いました。

2022年度は、九州大学から派遣の伊崎、福原が診療を継続し、山口医師に代わり、大分大学一般消化器外科小児外科学教室より小児外科の専門研修を目的として皆尺寺医師が着任しました。佐藤医師は7月より育休から復帰、時短勤務を行っています。

(診療実績)

2022年もCOVID-19流行の影響に加え、その他の小児の流行性疾患増加により手術延期となる症例が多数認められました。手術総数は253件から217件と減少しましたが、新生児症例は今年も20例を超えました(表1)。2022年は急性虫垂炎症例が激減し、この数が手術数の減少に大きく影響しました(33例→8例)。当院で急性虫垂炎に対して保存的加療を選択する症例が増加したわけではなく入院数が減少していました(45例→16例)ので治療法の変化というわけではないと考えます。代わりに例年2~3例の肥厚性幽門狭窄症の児が9例と多く、また新生児期症例が6例と多くを占めました。

少子化に伴い今後症例は徐々に減少することは否めませんが、その分1例1例の重要性が高まっています。また、社会的背景に問題点のある症例、合併症を有する症例が増加しています。患児とその家族がよりよい生活を送ることができるように、治療を行っていきたいと思います。

(研修・教育)

2022年は、大分県立病院初期研修プログラムから、研修医を3名迎えました。外科系の進路を希望されており、短期間で経験できる数は限られていますが、将来外科専攻医となった際に必要となる小児外科疾患の経験を積んでいただきました。

また、大分大学医学部の学生実習も引き受けております。大学での講義数が限られており、小児外科に興味をもってもらえるように疾患についての簡単な講義も行っています。

(今後の方向性)

当科は、新生児科、小児科、麻酔科など他科の協力を得ながら、日常疾患から新生児症例まで県内の多くの症例を担当しておりますが、マンパワーの問題もあり重症先天性横隔膜ヘルニアや、総排泄腔外反症などについては県外施設にお願いする形をとっています。また、近年は成人期に到達したトランジション症例も増えてきました。すべての患児のQOLがよりよくなるよう、小児外科医の関わり方について模索しながら、医療を進めてまいります。

(文責:伊崎智子)

表1 近年の手術件数の変遷 (単位:件)

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
手術数	317	284	312	266	241	253	217
(新生児)	16	13	22	9	16	22	21
緊急	61	61	70	48	62	57	40

表2 2022年の多かった術式 ()内は前年

腹腔鏡下单径ヘルニア手術(水腫含む)	75件(88件)
精巣固定術	26件(28件)
臍ヘルニア手術	9件(19件)
粘膜外幽門筋切開術	9件(2件)
腹腔鏡下虫垂切除術	8件(33件)